

所 属 名 称 : 教育総務課

(単位:千円)

(款-項-目-事業名称)	(最終予算額)	(決算額)	(ヘ-ジ)	(備考)
一般会計				
教育総務課	291,204	279,747		
9.教育費	285,147	279,075		
1.教育総務費	72,691	71,632		
1.教育委員会費	1,928	1,912		
教育委員会	1,928	1,912	14-1	
2.事務局費	70,763	69,720		
インクルーシブ教育システム推進事業	1,128	1,128	14-2	
スクールソーシャルワーカー活用事業	2,700	2,673	14-3	
教育委員会事務局費	55,420	54,740	14-4	
語学指導外国青年招致事業	8,930	8,637	14-5	
地域で育む学校支援ボランティア事業	1,489	1,449	14-6	
麟蹄郡中学校交流事業	1,096	1,093	14-7	
2.小学校費	141,621	138,887		
1.学校管理費	103,429	101,277		
一般経常経費(浦安小)	3,471	3,219	14-8	
一般経常経費(聖郷小)	2,829	2,706	14-9	
一般経常経費(赤碕小)	3,390	3,269	14-10	
一般経常経費(船上小)	2,690	2,560	14-11	
一般経常経費(配分外)	87,113	85,673	14-12	
一般経常経費(八橋小)	3,936	3,850	14-13	
2.教育振興費	38,192	37,610		
一般教育振興費(浦安小)	2,468	2,419	14-14	
一般教育振興費(聖郷小)	1,572	1,522	14-15	
一般教育振興費(赤碕小)	2,126	2,000	14-16	
一般教育振興費(船上小)	1,903	1,870	14-17	
一般教育振興費(配分外)	27,010	26,788	14-18	
一般教育振興費(八橋小)	2,119	2,055	14-19	
総合的な学習	880	858	14-20	
通級指導教室	114	98	14-21	
3.中学校費	70,835	68,556		
1.学校管理費	38,212	36,790		
一般経常経費(赤碕中)	2,925	2,560	14-22	
一般経常経費(東伯中)	4,271	3,590	14-23	
一般経常経費(配分外)	31,016	30,640	14-24	
2.教育振興費	32,623	31,766		
一般教育振興費(赤碕中)	3,213	2,980	14-25	
一般教育振興費(東伯中)	4,396	4,178	14-26	
一般教育振興費(配分外)	24,669	24,306	14-27	
総合的な学習	308	270	14-28	
通級指導教室(中学校)	37	32	14-29	
10.災害復旧費	6,057	672		
2.地震災害復旧費	6,057	672		
2.鳥取県中部地震対策費	6,057	672		
鳥取中部地震災害対策事業(地震災害復旧費・教育総務課)	6,057	672	14-30	

※端数処理の為、決算書の決算額と一致しない場合があります。

平成 28 年度 事業成果説明書 兼 評価書

1 事業の成果及び評価

一般会計

事業番号	243	事業名	教育委員会費			事業区分	□新規 ■継続											
担当課	教育総務課		担当係	庶務係、学務係、指導係														
予算区分	款	9	教育費	項	1	教育総務費	目	1										
								教育委員会費										
年度	最終 予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考										
			国庫 支出金	県支出金	その他 (収入)	起債	一般財源											
平成28年度	1,928	1,912					1,912											
平成28年度(明許)																		
活動項目	単位	年度	26(実績)	27(実績)	28(実績)	29	30											
設定なし		目標																
		実績																
		達成率																
事業の対象 (だれに)	教育委員会の運営(教育委員5名)																	
事業の目的 (なんのために)	地域の教育課題に応じた基本的な教育の方針・計画を策定するとともに、教育長及び事務局の事務執行状況を監視・評価する。																	
事業の実施状況	<p>○総合教育会議、教育委員会定例会・臨時会、学校計画訪問・保育園訪問を以下のとおり開催・実施しました。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>会議等名称</th> <th>開催・実施回数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合教育会議</td> <td>2回</td> </tr> <tr> <td>教育委員会定例会</td> <td>12回</td> </tr> <tr> <td>教育委員会臨時会</td> <td>2回</td> </tr> <tr> <td>学校計画訪問・保育園訪問</td> <td>延べ15回</td> </tr> </tbody> </table>								会議等名称	開催・実施回数	総合教育会議	2回	教育委員会定例会	12回	教育委員会臨時会	2回	学校計画訪問・保育園訪問	延べ15回
会議等名称	開催・実施回数																	
総合教育会議	2回																	
教育委員会定例会	12回																	
教育委員会臨時会	2回																	
学校計画訪問・保育園訪問	延べ15回																	
成果と課題	<p>【成果】</p> <p>1 計画訪問や学校・地域の行事に出向き、学校・地域の実情や課題の的確な把握に努め、教育ビジョン形成に役立てました。</p> <p>2 教育委員会制度改正による新教育長が平成28年10月に就任し、教育委員会も新たな体制がつけられました。</p> <p>【課題】</p> <p>1 地方創生や生涯教育を見据えて、社会教育や就学前教育(保育園・こども園)についての実態把握と連携を深める必要があります。</p> <p>2 今日の課題である、特別支援教育の理解を深める必要があります。</p>																	
評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性	住民ニーズ、事業の必要性は。	10,7,3,0									
							妥当性	行政必須か、委託の可能性は。	10,7,3,0									
							公平性	受益者の偏りはないか。	5,3,1,0									
評価点	10	10	3	3	3	1	有効性	目標数値は達成できたか。	5,3,1,0									
							効率性	コスト・人員効率はどうか。	5,3,1,0									
							先駆性・独創性	他の見本となりえるか。	5,3,1,0									
評価点計 (40点満点)			30	判定基準	A:事業拡充 B:現状維持 C:改善・効率化し継続、委託の検討 D:規模縮小、終期設定、委託の検討 E:休止、廃止													
担当課による判定と理由																		
B	教育委員会の運営のために必要不可欠であり、継続すべき事業です。																	

平成 28 年度 事業成果説明書 兼 評価書

1 事業の成果及び評価

一般会計

事業番号	1219	事業名	インクルーシブ教育システム推進事業			事業区分	□新規 ■継続															
担当課	教育総務課		担当係	指導係																		
予算区分	款	9	教育費	項	1	教育総務費	目	2	事務局費													
年度	最終 予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考														
			国庫 支出金	県支出金	その他 (収入)	起債	一般財源															
平成28年度	1,128	1,128		752			376															
平成28年度(明許)																						
活動項目	単位	年度	26(実績)	27(実績)	28(実績)	29	30															
設定なし		目標 実績 達成率																				
事業の対象 (だれに)	地域支援コーディネーター1名配置(町内の保育園・こども園・小中学校を対象)																					
事業の目的 (なんのために)	障がいのある子どもを含むすべての子どもに対して、子ども一人ひとりの教育的ニーズにあった適切な教育的支援を通常の学級において行う共生社会の形成に向けた教育システムを構築する。																					
事業の 実施状況	<p>○年間の活動内容は以下のとおりです。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>活動内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4月</td> <td>学校訪問、保育園・こども園訪問 「障害者差別解消法」と合理的配慮の提供、特別支援教育主任の役割について</td> </tr> <tr> <td>6月</td> <td>LD等専門員の巡回相談への参加</td> </tr> <tr> <td>8月</td> <td>「子どもの特性を生かして支援に生かそう」、校内研修会への参加</td> </tr> <tr> <td>10月～</td> <td>「読みのアセスメント、指導教材(MIM)の訪問授業」</td> </tr> <tr> <td>12月～</td> <td>「どうやって寄り添う?保護者への対応、子どもへの支援 ～ソーシャルワークとカウンセリングを利用した事例検討～」</td> </tr> <tr> <td>2月</td> <td>琴浦町特別支援教育連携協議会開催</td> </tr> </tbody> </table>								月	活動内容	4月	学校訪問、保育園・こども園訪問 「障害者差別解消法」と合理的配慮の提供、特別支援教育主任の役割について	6月	LD等専門員の巡回相談への参加	8月	「子どもの特性を生かして支援に生かそう」、校内研修会への参加	10月～	「読みのアセスメント、指導教材(MIM)の訪問授業」	12月～	「どうやって寄り添う?保護者への対応、子どもへの支援 ～ソーシャルワークとカウンセリングを利用した事例検討～」	2月	琴浦町特別支援教育連携協議会開催
月	活動内容																					
4月	学校訪問、保育園・こども園訪問 「障害者差別解消法」と合理的配慮の提供、特別支援教育主任の役割について																					
6月	LD等専門員の巡回相談への参加																					
8月	「子どもの特性を生かして支援に生かそう」、校内研修会への参加																					
10月～	「読みのアセスメント、指導教材(MIM)の訪問授業」																					
12月～	「どうやって寄り添う?保護者への対応、子どもへの支援 ～ソーシャルワークとカウンセリングを利用した事例検討～」																					
2月	琴浦町特別支援教育連携協議会開催																					
成果と 課題	<p>【成果】</p> <ol style="list-style-type: none"> 特別支援教育コーディネーターによる学校、保育園・こども園への体制整備に係る相談支援や相談活動を定期的実施し、継続支援に繋がりました。 連携協議会を開催し、支援・連携マップ、引継ぎ方法等を情報提供し、実践化に繋げることができました。 <p>【課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 特別支援教育コーディネーターの訪問・支援相談時間に制約があります。 発達障がいや、合理的配慮に対する保護者の理解への啓発活動を進める必要があります。 																					
評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性 住民ニーズ、事業の必要性は。	10,7,3,0														
							妥当性 行政必須か、委託の可能性は。	10,7,3,0														
							公平性 受益者の偏りはないか。	5,3,1,0														
評価点	10	7	3	3	3	3	有効性 目標数値は達成できたか。	5,3,1,0														
							効率性 コスト・人員効率はどうか。	5,3,1,0														
							先駆性・独創性 他の見本となりえるか。	5,3,1,0														
評価点計 (40点満点)	29		判定基準	A:事業拡充 B:現状維持 C:改善・効率化し継続、委託の検討 D:規模縮小、終期設定、委託の検討 E:休止、廃止																		
担当課による判定と理由																						
B	特別支援学級だけでなく、通常学級にも発達障がい等支援が必要な児童生徒は増加傾向にあり、学校の体制作り及び教職員の理解、指導力を高めるため、町として学校を支援していく必要性が高まっており、継続すべき事業です。																					

平成 **28** 年度 事業成果説明書 兼 評価書

1 事業の成果及び評価 一般会計

事業番号	1186	事業名	スクールソーシャルワーカー活用事業	事業区分	<input type="checkbox"/> 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続			
担当課	教育総務課	担当係	指導係					
予算区分	9	教育費	項	1	教育総務費	2		
						事務局費		
年度	最終 予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)				備考	
			国庫 支出金	県支出金	その他 (収入)	起債	一般財源	
平成28年度	2,700	2,673		1,782			891	
平成28年度(明許)								
活動項目	単位	年度	26(実績)	27(実績)	28(実績)	29	30	
設定なし		目標						
		実績						
		達成率						
事業の対象 (だれに)	スクールソーシャルワーカーの配置(東伯中学校に配置し、町内各学校等の相談に対応)							
事業の目的 (なんのために)	教育分野に関する知識に加えて、社会福祉等の専門的な知識・技術を用いて、児童生徒の置かれた様々な環境に働きかけて、支援を行うスクールソーシャルワーカーを配置し、関係機関との連携を図り、相談体制の整備を図る。							
事業の実施状況	☆スクールソーシャルワーカーによる年間支援件数(課題別) ①不登校 20件 ⑥家庭環境の問題 30件 ②いじめ、暴力行為、非行等の問題行動 2件 ⑦心身の健康・保健に関する問題 4件 ③友人、教職員等との関係の問題 6件 ⑧発達障害等に関する問題 2件 ④児童虐待 4件 ⑨その他 0件 ⑤貧困の問題 10件 合計 78件							
成果と課題	【成果】 1 スクールソーシャルワーカーがケース会議に参加し、福祉の視点での支援を考えることができました。 2 スクールソーシャルワーカーの役割についての教職員の理解が進みました。 【課題】 1 スクールソーシャルワーカーの配置方法が、拠点校方式(東伯中学校)のため、教育委員会との情報共有・共通理解が図りづらい面があります。 2 スクールソーシャルワーカーの勤務が非常勤で、対応できるケースに限界があります。							
評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性 住民ニーズ、事業の必要性は。	10,7,3,0
							妥当性 行政必須か、委託の可能性は。	10,7,3,0
							公平性 受益者の偏りはないか。	5,3,1,0
							有効性 目標数値は達成できたか。	5,3,1,0
評価点	10	7	3	3	5	3	効率性 コスト・人員効率はどうか。	5,3,1,0
							先駆性・独創性 他の見本となりえるか。	5,3,1,0
評価点計 (40点満点)		31		判定基準	A:事業拡充 B:現状維持 C:改善・効率化し継続、委託の検討 D:規模縮小、終期設定、委託の検討 E:休止、廃止			
担当課による判定と理由								
A	家庭環境に課題を抱える児童生徒は増加しており、教育分野だけでは課題解決が難しいケースに対して、スクールソーシャルワーカーの必要性は高まっているため、継続すべき事業です。							

平成 28 年度 事業成果説明書 兼 評価書

1 事業の成果及び評価

一般会計

事業番号	245	事業名	教育委員会事務局費			事業区分	□新規 ■継続							
担当課	教育総務課		担当係	庶務係、学務係、指導係										
予算区分	款	9	教育費	項	1	教育総務費	目	2	事務局費					
年度	最終 予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考						
			国庫 支出金	県支出金	その他 (収入)	起債	一般財源							
平成28年度	55,420	54,740		3,716	3,723		47,301							
平成28年度(明許)														
活動項目	単位	年度	26(実績)	27(実績)	28(実績)		29	30						
設定なし		目標 実績 達成率												
事業の対象 (だれに)	小学校5校 児童数873名、中学校2校 生徒数498名、教職員数171名													
事業の目的 (なんのため に)	教育委員会事務局及び学校全般に係る事務を処置する。													
事業の 実施状況	<p>○以下のとおり、奨学金の貸付を行いました。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>奨学金名称</th> <th>貸付件数</th> <th>貸付金額(円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>林原育英奨学金</td> <td>2件</td> <td>540,000</td> </tr> </tbody> </table>								奨学金名称	貸付件数	貸付金額(円)	林原育英奨学金	2件	540,000
奨学金名称	貸付件数	貸付金額(円)												
林原育英奨学金	2件	540,000												
成果と 課題	<p>【成果】</p> <ol style="list-style-type: none"> ICT(情報機器)整備を図り、時代に適応した授業展開を働きかけました。 小中学校の大規模地震対策・対応マニュアルを策定し、緊急時の具体的な対応方針を定めました。 保護者、保育園・こども園、小・中学校の連携強化を図り、子どもたち一人一人に確かな学力を身につけさせる働きかけに取り組むとともに、地域に開かれた学校づくりを推進することができました。 少人数学級の設置により、教員の学級経営の負担を軽減できました。(3小学校、3クラス) <p>【課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 特別支援教育および教育相談体制の更なる充実と今日的教育課題の解決に向けて引き続き取り組む必要があります。 													
評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性 住民ニーズ、事業の必要性は。	10,7,3,0						
							妥当性 行政必須か、委託の可能性は。	10,7,3,0						
							公平性 受益者の偏りはないか。	5,3,1,0						
評価点	7	7	3	3	3	1	有効性 目標数値は達成できたか。	5,3,1,0						
							効率性 コスト・人員効率はどうか。	5,3,1,0						
							先駆性・独創性 他の見本となりえるか。	5,3,1,0						
評価点計 (40点満点)			24	判定基準	A:事業拡充 B:現状維持 C:改善・効率化し継続、委託の検討 D:規模縮小、終期設定、委託の検討 E:休止、廃止									
担当課による判定と理由														
B	教育委員会事務局および学校全般に係る事務処理を行う上で必要不可欠であり、継続すべき事業です。													

平成 28 年度 事業成果説明書 兼 評価書

1 事業の成果及び評価

一般会計

事業番号	246	事業名	語学指導外国青年招致事業			事業区分	□新規 ■継続																
担当課	教育総務課		担当係	学務係																			
予算区分	9	教育費	項	1	教育総務費	目	2	事務局費															
年度	最終 予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考															
			国庫 支出金	県支出金	その他 (収入)	起債	一般財源																
平成28年度	8,930	8,637					8,637																
平成28年度(明許)																							
活動項目	単位	年度	26(実績)	27(実績)	28(実績)	29	30																
設定なし		目標																					
		実績																					
		達成率																					
事業の対象 (だれに)	外国語指導助手(A L T) 2名 各中学校に配置																						
事業の目的 (なんのために)	児童、生徒が外国語や異文化にふれ、国際感覚を身につけるように英語圏より招致し、外国語指導助手として、東伯中学校、赤碕中学校に配置し、また町内各小学校や地域との国際交流にかかわる。																						
事業の実施状況	<p>○町内各園・小学校へ以下のとおり訪問・交流しました。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>1学期</th> <th>2学期</th> <th>3学期</th> <th>年度計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保育園</td> <td>18回</td> <td>17回</td> <td>12回</td> <td>延べ47回</td> </tr> <tr> <td>小学校</td> <td>24回</td> <td>33回</td> <td>22回</td> <td>延べ79回</td> </tr> </tbody> </table>									1学期	2学期	3学期	年度計	保育園	18回	17回	12回	延べ47回	小学校	24回	33回	22回	延べ79回
	1学期	2学期	3学期	年度計																			
保育園	18回	17回	12回	延べ47回																			
小学校	24回	33回	22回	延べ79回																			
成果と課題	<p>【成果】</p> <p>1 児童、生徒が生きた外国語を習得するために、新たな英語指導助手をそれぞれの中学校に配置できました。</p> <p>2 町内各園・小学校や地域にA L Tが出向き国際交流を図ることができました。</p> <p>【課題】</p> <p>1 英語教科化に向け、保育園や小学校での活動の見直しが必要です。</p>																						
評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性 住民ニーズ、事業の必要性は。	10, 7, 3, 0															
							妥当性 行政必須か、委託の可能性は。	10, 7, 3, 0															
							公平性 受益者の偏りはないか。	5, 3, 1, 0															
評価点	10	3	3	3	3	1	有効性 目標数値は達成できたか。	5, 3, 1, 0															
							効率性 コスト・人員効率はどうか。	5, 3, 1, 0															
							先駆性・独創性 他の見本となりえるか。	5, 3, 1, 0															
評価点計 (40点満点)		23		判定基準		A:事業拡充 B:現状維持 C:改善・効率化し継続、委託の検討 D:規模縮小、終期設定、委託の検討 E:休止、廃止																	
担当課による判定と理由																							
B	英語教育の低年齢化が進んでおり、ニーズも高まっているため、継続して行うべき事業です。																						

平成 28 年度 事業成果説明書 兼 評価書

1 事業の成果及び評価

一般会計

事業番号	1125	事業名	地域で育む学校支援ボランティア事業			事業区分	□新規 ■継続		
担当課	教育総務課		担当係	指導係					
予算区分	款	9	教育費	項	1	教育総務費	目	2	事務局費
年度	最終 予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考	
			国庫 支出金	県支出金	その他 (収入)	起債	一般財源		
平成28年度	1,489	1,449		1,208			241		
平成28年度(明許)									
活動項目	単位	年度	26(実績)	27(実績)	28(実績)	29	30		
設定なし		目標							
		実績							
		達成率							
事業の対象 (だれに)	小中学校7校 ボランティアコーディネーター9名								
事業の目的 (なんのために)	各小・中学校にボランティアコーディネーターを配置し、地域住民のボランティアの協力により、生活支援や学習支援、環境整備、地域文化の伝承や安全パトロールなど、学校と地域が協働しながら、児童生徒へのきめ細やかな指導や安全安心な学校生活の実現を図る。								
事業の実施状況	<p>各小中学校において、以下のとおり地域のボランティアによる教育支援活動が実施できました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登下校の見守り ・読み聞かせ ・学習支援 ・環境整備活動 								
成果と課題	<p>【成果】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地域の子ども達を地域で育てる意識が向上しました。 2 子ども達が地域の人たちの支えを実感できました。 3 学力向上の一助になりました。 <p>【課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地域の創生に関わるような仕掛けづくりが必要です。 2 住民による学校支援から、学校による地域支援への発展的な活動の創出が必要です。 								
評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性 住民ニーズ、事業の必要性は。	10,7,3,0	
							妥当性 行政必須か、委託の可能性は。	10,7,3,0	
							公平性 受益者の偏りはないか。	5,3,1,0	
評価点	10	7	3	3	3	3	有効性 目標数値は達成できたか。	5,3,1,0	
							効率性 コスト・人員効率はどうか。	5,3,1,0	
							先駆性・独創性 他の見本となりえるか。	5,3,1,0	
評価点計 (40点満点)			29	判定基準	A:事業拡充 B:現状維持 C:改善・効率化し継続、委託の検討 D:規模縮小、終期設定、委託の検討 E:休止、廃止				
担当課による判定と理由									
B	地域の活性化や児童生徒の学力向上につながる、また、教職員の長時間労働解消の一助なるため、継続して行うべき事業です。								

平成 28 年度 事業成果説明書 兼 評価書

1 事業の成果及び評価

一般会計

事業番号	1247	事業名	麟蹄郡中学校交流事業			事業区分	□新規 ■継続		
担当課	教育総務課		担当係	学務係					
予算区分	款	9	教育費	項	1	教育総務費	目	2	事務局費
年度	最終 予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考	
			国庫 支出金	県支出金	その他 (収入)	起債	一般財源		
平成28年度	1,096	1,093					1,093		
平成28年度(明許)									
活動項目	単位	年度	26(実績)	27(実績)	28(実績)	29	30		
設定なし		目標							
		実績							
		達成率							
事業の対象 (だれに)	訪問14名、招聘15名								
事業の目的 (なんのために)	東伯中学校及び韓国江原道新南中高等学校は国際教育の一環として、学生達の未来的・文化的・言語的理解、国際的感覚を育み、友好と交流を促進する。 ※調印式：平成26年12月11日 東伯中学校において実施								
事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・相互交流の一環として新南中高等学校に訪問団を派遣しました。 ①訪問期間：平成28年8月18日(木)～20日(土) ②交流内容 <ul style="list-style-type: none"> ・学校紹介(相互に) ・交流活動(自己紹介等) ・体験授業(美術) 								
成果と課題	<p>【成果】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 訪韓により韓国の文化や習慣に直接触れることができました。 2 訪韓した生徒による紙上発表により、他の生徒に還元できました。 <p>【課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 現地交流を活かした日常的な活動が困難です。 2 テレビ会議等での交流方法を検討していく必要があります。 3 韓国側の状況によって、交流方法が変更されてしまう傾向があります。 								
評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性	住民ニーズ、事業の必要性は。	10,7,3,0
評価点	3	7	0	1	0	0	妥当性	行政必須か、委託の可能性は。	10,7,3,0
							公平性	受益者の偏りはないか。	5,3,1,0
							有効性	目標数値は達成できたか。	5,3,1,0
							効率性	コスト・人員効率はどうか。	5,3,1,0
						先駆性・独創性	他の見本となりえるか。	5,3,1,0	
評価点計 (40点満点)	11		判定基準	A:事業拡充 B:現状維持 C:改善・効率化し継続、委託の検討 D:規模縮小、終期設定、委託の検討 E:休止、廃止					
担当課による判定と理由									
D	訪韓する生徒と他の生徒との間に国際交流に対しての温度差があります。費用対効果を考慮しながら、インターネットの活用等交流内容を再検討すべきです。								

平成 28 年度 事業成果説明書 兼 評価書

1 事業の成果及び評価

一般会計

事業番号	258	事業名	一般経常経費（浦安小）			事業区分	□新規 ■継続	
担当課	教育総務課		担当係	庶務係、学務係、指導係				
予算区分	款	9 教育費	項	2 小学校費	目	1	学校管理費	
年度	最終 予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考
			国庫 支出金	県支出金	その他 (収入)	起債	一般財源	
平成28年度	3,471	3,219					3,219	
平成28年度(明許)								
活動項目	単位	年度	26(実績)	27(実績)	28(実績)	29	30	
設定なし		目標	—	—	—	—	—	—
		実績	—	—	—	—	—	—
		達成率	—	—	—	—	—	—
事業の対象 (だれに)	浦安小学校 児童224人、職員27人 学級数13学級（うち特別支援学級4学級）							
事業の目的 (なんのために)	児童が安心して生活できる学校の施設管理をする。 校舎の老朽化に伴い、破損等に対応した校舎内外の環境整備に努める。							
事業の実施状況	学校の維持管理として、以下の備品を整備しました。 【整備備品】 保健室用備品（担架・担架収納袋）、石油ストーブ 等 金額 355,252 円							
成果と課題	【成果】 ・毎月1回、教職員が管理担当場所の安全点検を実施することにより、早い段階での修繕等の対応ができました。 ・水道管の漏水が修繕できたことにより、光熱水費を削減できました。 ・備品（石油ストーブ、ポールストレッチャー（担架）、担架収納袋）の購入により、児童が安心安全な環境で学校生活を送ることができました。 【課題】 ・校舎の老朽化に伴う突発的な修繕・補修箇所が増えています。（S41.2建設）							
評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性 住民ニーズ、事業の必要性は。	10,7,3,0
評価点	7	10	5	3	3	1	妥当性 行政必須か、委託の可能性は。	10,7,3,0
							公平性 受益者の偏りはないか。	5,3,1,0
							有効性 目標数値は達成できたか。	5,3,1,0
							効率性 コスト・人員効率はどうか。	5,3,1,0
						先駆性・独創性 他の見本となりえるか。	5,3,1,0	
評価点計 (40点満点)		29		判定基準		A:事業拡充 B:現状維持 C:改善・効率化し継続、委託の検討 D:規模縮小、終期設定、委託の検討 E:休止、廃止		
担当課による判定と理由								
B	児童が安心して生活できる学校の施設管理のため、必要不可欠であり継続して行うべきです。							

平成 **28** 年度 事業成果説明書 兼 評価書

1 事業の成果及び評価

一般会計

事業番号	259	事業名	一般経常経費（聖郷小）			事業区分	□新規 ■継続		
担当課	教育総務課		担当係	庶務係、学務係、指導係					
予算区分	款	9	教育費	項	2	小学校費	目	1	学校管理費
年度	最終 予算額 (千円)	決算額 (千円)		事業費財源内訳 (千円)				備考	
		国庫 支出金	県支出金	その他 (収入)	起債	一般財源			
平成28年度	2,829	2,706						2,706	
平成28年度(明許)									
活動項目	単位	年度	26(実績)	27(実績)	28(実績)	29	30		
設定なし		目標	—	—	—	—	—	—	
		実績	—	—	—	—	—	—	
		達成率	—	—	—	—	—	—	
事業の対象 (だれに)	聖郷小学校 児童数108人、教職員数18人 学級数8学級（うち特別支援学級2学級）								
事業の目的 (なんのため に)	小学校の運営を円滑にするために、施設維持及び整備、環境整備を行う。								
事業の 実施状況	学校の維持管理として、以下の備品を整備しました。 【整備備品】オーディオメーター、保健用ワゴン 等 金額 188,842 円								
成果と 課題	【成果】 ・毎月の安全点検により、破損・不良箇所の早めの発見、対応に努めました。 【課題】 ・校舎は建築から20年が経過しており、破損等、老朽化に対応した校舎内外の環境整備に努める必要があります。(H7.10建設)								
評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性	住民ニーズ、事業の必要性は。	10,7,3,0
評価点	7	10	5	3	3	1	妥当性	行政必須か、委託の可能性は。	10,7,3,0
							公平性	受益者の偏りはないか。	5,3,1,0
							有効性	目標数値は達成できたか。	5,3,1,0
							効率性	コスト・人員効率はどうか。	5,3,1,0
						先駆性・独創性	他の見本となりえるか。	5,3,1,0	
評価点計 (40点満点)		29		判定基準	A:事業拡充 B:現状維持 C:改善・効率化し継続、委託の検討 D:規模縮小、終期設定、委託の検討 E:休止、廃止				
担当課による判定と理由									
B	児童が安心して生活できる学校の施設管理のため、必要不可欠であり継続して行うべきです。								

平成 28 年度 事業成果説明書 兼 評価書

1 事業の成果及び評価

一般会計

事業番号	378	事業名	一般経常経費（赤碕小）		事業区分	<input type="checkbox"/> 新規	<input checked="" type="checkbox"/> 継続		
担当課	教育総務課		担当係	庶務係、学務係、指導係					
予算区分	款	9	教育費	項	2	小学校費	目	1	学校管理費
年度	最終 予算額 (千円)	決算額 (千円)		事業費財源内訳 (千円)					備考
				国庫 支出金	県支出金	その他 (収入)	起債	一般財源	
平成28年度	3,390	3,269						3,269	
平成28年度(明許)									
活動項目	単位	年度	26(実績)	27(実績)	28(実績)	29	30		
設定なし		目標	—	—	—	—	—		
		実績	—	—	—	—	—		
		達成率	—	—	—	—	—		
事業の対象 (だれに)	赤碕小学校 児童204人、職員25人 学級数12学級（うち特別支援学級3学級）								
事業の目的 (なんのために)	小学校の運営を円滑にするために施設維持及び整備、環境整備を行う。								
事業の実施状況	<p>学校の維持管理として、以下の備品を整備しました。</p> <p>【整備備品】 布団クリーナー、事務机、給食配膳台 等 金額 412,214円</p>								
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期的な安全点検を行っています。全職員が毎月、割り当てられた教室及び施設に破損箇所等が無いかを確認しました。それにより修繕箇所をすぐに見つけることができ、児童の安全確保及び、学業集中に努めることができました。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 設備等の老朽化 定期的な点検は行っていますが、プリンター等、学校設備老朽化に伴う突発的な故障が増えていきます。 ・ 学習環境の整備 気温の高い夏場にも集中して学習に取り組むため、学習環境の整備が必要です。 								
評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性 住民ニーズ、事業の必要性は。	10,7,3,0	
評価点	7	10	5	3	3	1	妥当性 行政必須か、委託の可能性は。	10,7,3,0	
							公平性 受益者の偏りはないか。	5,3,1,0	
							有効性 目標数値は達成できたか。	5,3,1,0	
							効率性 コスト・人員効率はどうか。	5,3,1,0	
						先駆性・独創性	他の見本となりえるか。	5,3,1,0	
評価点計 (40点満点)		29		判定基準	A: 事業拡充 B: 現状維持 C: 改善・効率化し継続、委託の検討 D: 規模縮小、終期設定、委託の検討 E: 休止、廃止				
担当課による判定と理由									
B	児童が安心して生活できる学校の施設管理のため、必要不可欠であり継続して行うべきです。								

平成 28 年度 事業成果説明書 兼 評価書

1 事業の成果及び評価

一般会計

事業番号	379	事業名	一般経常経理（船上小）			事業区分	□新規 ■継続		
担当課	教育総務課		担当係	庶務係、学務係、指導係					
予算区分	款	9	教育費	項	2	小学校費	目	1	学校管理費
年度	最終 予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考	
			国庫 支出金	県支出金	その他 (収入)	起債	一般財源		
平成28年度	2,690	2,560					2,560		
平成28年度(明許)									
活動項目	単位	年度	26(実績)	27(実績)	28(実績)	29	30		
設定なし		目標	—	—	—	—	—	—	
		実績	—	—	—	—	—	—	
		達成率	—	—	—	—	—	—	
事業の対象 (だれに)	船上小学校 児童数140人、教員数21人 学級数8学級（うち特別支援学級2学級）								
事業の目的 (なんのため に)	小学校の運営を円滑にするために施設維持及び整備、環境整備を行う。								
事業の 実施状況	学校の維持管理として、以下の備品を整備しました。 【整備備品】 シュレッダー 金額 135,864円								
成果と 課題	【成果】 ・定期的に安全点検を行うことにより、危険箇所や修繕箇所について迅速に対応し、児童が安全・安心に学習できる環境を整えることができました。 【課題】 ・旧成美小学校の改築から20年以上が経過し、統合後も同じ校舎を使用しているために施設設備・備品の老朽化により、急な破損・故障が生じることが非常に多くなっています。（H6改築）								
評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性 住民ニーズ、事業の必要性は。	10,7,3,0	
評価点	7	10	5	3	3	1	妥当性 行政必須か、委託の可能性は。	10,7,3,0	
							公平性 受益者の偏りはないか。	5,3,1,0	
							有効性 目標数値は達成できたか。	5,3,1,0	
							効率性 コスト・人員効率はどうか。	5,3,1,0	
						先駆性・独創性 他の見本となりえるか。	5,3,1,0		
評価点計 (40点満点)			29	判定基準	A:事業拡充 B:現状維持 C:改善・効率化し継続、委託の検討 D:規模縮小、終期設定、委託の検討 E:休止、廃止				
担当課による判定と理由									
B	児童が安心して生活できる学校の施設管理のため、必要不可欠であり継続して行うべきです。								

平成 28 年度 事業成果説明書 兼 評価書

1 事業の成果及び評価

一般会計

事業番号	256	事業名	一般経常経費(配分外)				事業区分	□新規 ■継続	
担当課	教育総務課		担当係	庶務係、学務係、指導係					
予算区分	款	9	教育費	項	2	小学校費	目	1	学校管理費
年度	最終 予算額 (千円)	決算額 (千円)		事業費財源内訳 (千円)				備考	
		国庫 支出金	県支出金	その他 (収入)	起債	一般財源			
平成28年度	87,113	85,673				8,000		77,673	
平成28年度(明許)									
活動項目	単位	年度	26(実績)	27(実績)	28(実績)	29	30		
設定なし		目標	—	—	—	—	—	—	—
		実績	—	—	—	—	—	—	—
		達成率	—	—	—	—	—	—	—
事業の対象 (だれに)	町立小学校 5校 対象児童数895名								
事業の目的 (なんのために)	小学校の運営を円滑にするために施設維持及び整備、環境整備を行う。								
事業の 実施状況	<p>小学校の施設維持及び整備を以下のとおり実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> 印刷機修繕、ランチルーム入り口通路改善工事、職員室黒板取替工事、屋外遊具修繕、通学路ガードパイプ設置工事 等 金額 11,757,967円 小学校施設剪定防除等委託料、消防設備委託料、電気設備保守委託料、スクールバス運行管理委託料 等 金額 18,363,757円 								
成果と 課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校の教育環境整備に取り組み、円滑な学校運営ができるよう努めました。屋外遊具修繕工事の実施 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設等の経年により修繕や補修が増加し、維持管理(校舎・建具・水周り等)の経費がかかっています。 								
評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性	住民ニーズ、事業の必要性は。	10,7,3,0
評価点	10	10	5	3	3	1	妥当性	行政必須か、委託の可能性は。	10,7,3,0
							公平性	受益者の偏りはないか。	5,3,1,0
							有効性	目標数値は達成できたか。	5,3,1,0
							効率性	コスト・人員効率はどうか。	5,3,1,0
先駆性・独創性	他の見本となりえるか。	5,3,1,0							
評価点 計 (40点満点)		32		判定基準	A:事業拡充 B:現状維持 C:改善・効率化し継続、委託の検討 D:規模縮小、終期設定、委託の検討 E:休止、廃止				
担当課による判定と理由									
B	小学校の運営を円滑にするため、継続して行うべきです。また、災害時の避難所としての機能も備える必要があります。								

平成 **28** 年度 事業成果説明書 兼 評価書

1 事業の成果及び評価

一般会計

事業番号	257	事業名	一般経常経費（八橋小）			事業区分	□新規 ■継続		
担当課	教育総務課		担当係	庶務係、学務係、指導係					
予算区分	款	9	教育費	項	2	小学校費	目	1	学校管理費
年度	最終 予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考	
			国庫 支出金	県支出金	その他 (収入)	起債	一般財源		
平成28年度	3,936	3,850					3,850		
平成28年度(明許)									
活動項目	単位	年度	26(実績)	27(実績)	28(実績)	29	30		
設定なし		目標	—	—	—	—	—	—	
		実績	—	—	—	—	—	—	
		達成率	—	—	—	—	—	—	
事業の対象 (だれに)	八橋小学校 児童205人、職員24人 学級数13学級（うち特別支援学級5学級）								
事業の目的 (なんのために)	小学校の運営を円滑にするために施設維持及び整備、環境整備を行う。								
事業の実施状況	学校の維持管理として、以下の備品を整備しました。 【整備備品】身長計、角椅子、ガスコンロ、給食配膳台 等 金額 518,681 円								
成果と課題	【成果】 ・児童が安心して安全な学校生活を送ることができるよう日頃から校舎・校地内を巡回し、毎月教職員が分担して施設設備の安全点検を行いました。これにより修繕・危険箇所を早期に発見し、教育委員会と連携して迅速な対応ができました。 ・音楽室椅子、家庭科室ガスコンロなど購入から年数が経過した備品を年次的に整備し、有効活用することができました。 【課題】 ・施設設備の老朽化が進んでおり、破損や故障、不具合など突発的に起こることが多くなりました。(S44.12建設)								
評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性 住民ニーズ、事業の必要性は。	10,7,3,0	
評価点	7	10	5	3	3	1	妥当性 行政必須か、委託の可能性は。	10,7,3,0	
							公平性 受益者の偏りはないか。	5,3,1,0	
							有効性 目標数値は達成できたか。	5,3,1,0	
							効率性 コスト・人員効率はどうか。	5,3,1,0	
						先駆性・独創性 他の見本となりえるか。	5,3,1,0		
評価点計 (40点満点)	29		判定基準	A:事業拡充 B:現状維持 C:改善・効率化し継続、委託の検討 D:規模縮小、終期設定、委託の検討 E:休止、廃止					
担当課による判定と理由									
B	児童が安心して生活できる学校の施設管理のため、必要不可欠であり継続して行うべきです。								

平成 **28** 年度 事業成果説明書 兼 評価書

1 事業の成果及び評価

一般会計

事業番号	264	事業名	一般教育振興費（浦安小）			事業区分	□新規 ■継続		
担当課	教育総務課		担当係	庶務係、学務係、指導係					
予算区分	款	9	教育費	項	2	小学校費	目	2	教育振興費
年度	最終 予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考	
			国庫 支出金	県支出金	その他 (収入)	起債	一般財源		
平成28年度	2,468	2,419					2,419		
平成28年度(明許)									
活動項目	単位	年度	26(実績)	27(実績)	28(実績)	29	30		
設定なし		目標	—	—	—	—	—	—	
		実績	—	—	—	—	—	—	
		達成率	—	—	—	—	—	—	
事業の対象 (だれに)	浦安小学校 児童224人、職員27人 学級数13学級（うち特別支援学級4学級）								
事業の目的 (なんのために)	教育振興のため、教材・図書等の整備を行い学力向上を図る。								
事業の実施状況	<p>教育振興のため、以下について実施及び整備しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 知能検査、学力検査等の実施 金額 531,540円 ・ 児童用・特別支援学級用図書等の整備 金額 466,459円 								
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習に必要な備品を揃えたり、購入できない備品は他校から借用するなど、児童の学習環境の整備に努め、充実した授業や学力向上につなげました。 ・ 学力検査を行い、問題点を明確にして学力向上につなげました。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 優先順位を検討しながら事業を行っていますが、まだ不足している教材等もあるため、計画的に整備を進める必要があります。 								
評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性 住民ニーズ、事業の必要性は。	10,7,3,0	
評価点	7	10	1	3	3	1	妥当性 行政必須か、委託の可能性は。	10,7,3,0	
							公平性 受益者の偏りはないか。	5,3,1,0	
							有効性 目標数値は達成できたか。	5,3,1,0	
							効率性 コスト・人員効率はどうか。	5,3,1,0	
						先駆性・独創性 他の見本となりえるか。	5,3,1,0		
評価点計 (40点満点)	25		判定基準	A:事業拡充 B:現状維持 C:改善・効率化し継続、委託の検討 D:規模縮小、終期設定、委託の検討 E:休止、廃止					
担当課による判定と理由									
B	教育振興のための学習環境整備を継続して行うべきです。								

平成 28 年度 事業成果説明書 兼 評価書

1 事業の成果及び評価

一般会計

事業番号	265	事業名	一般教育振興費（聖郷小）			事業区分	□新規 ■継続		
担当課	教育総務課		担当係	庶務係、学務係、指導係					
予算区分	款	9	教育費	項	2	小学校費	目	2	教育振興費
年度	最終 予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考	
			国庫 支出金	県支出金	その他 (収入)	起債	一般財源		
平成28年度	1,572	1,522					1,522		
平成28年度(明許)									
活動項目	単位	年度	26(実績)	27(実績)	28(実績)	29	30		
設定なし		目標	—	—	—	—	—	—	
		実績	—	—	—	—	—	—	
		達成率	—	—	—	—	—	—	
事業の対象 (だれに)	聖郷小学校 児童数108人、教職員数18人 学級数8学級（うち特別支援学級2学級）								
事業の目的 (なんのために)	教育振興のため、必要な教材・図書等の整備を行い学力向上を図る。								
事業の実施状況	<p>教育振興のため、以下について実施及び整備しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 知能検査、学力検査等の実施 金額 255,920 円 ・ 児童用・特別支援学級用図書等の整備 金額 231,286 円 								
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育振興のため、教材・図書等の教育環境を整備しました。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 優先順位の高いものから備品の整備を行っていく必要があります。 								
評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性 住民ニーズ、事業の必要性は。	10,7,3,0	
評価点	7	10	1	3	3	1	妥当性 行政必須か、委託の可能性は。	10,7,3,0	
							公平性 受益者の偏りはないか。	5,3,1,0	
							有効性 目標数値は達成できたか。	5,3,1,0	
							効率性 コスト・人員効率はどうか。	5,3,1,0	
						先駆性・独創性 他の見本となりえるか。	5,3,1,0		
評価点計 (40点満点)	25		判定基準	A:事業拡充 B:現状維持 C:改善・効率化し継続、委託の検討 D:規模縮小、終期設定、委託の検討 E:休止、廃止					
担当課による判定と理由									
B	教育振興のための学習環境整備を継続して行うべきです。								

平成 **28** 年度 事業成果説明書 兼 評価書

1 事業の成果及び評価

一般会計

事業番号	382	事業名	教育振興費（赤碕小）			事業区分	□新規 ■継続		
担当課	教育総務課		担当係	庶務係、学務係、指導係					
予算区分	款	9	教育費	項	2	小学校費	目	2	教育振興費
年度	最終 予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考	
			国庫 支出金	県支出金	その他 (収入)	起債	一般財源		
平成28年度	2,126	2,000					2,000		
平成28年度(明許)									
活動項目	単位	年度	26(実績)	27(実績)	28(実績)	29	30		
設定なし		目標	—	—	—	—	—	—	
		実績	—	—	—	—	—	—	
		達成率	—	—	—	—	—	—	
事業の対象 (だれに)	赤碕小学校 児童204人、職員25人 学級数12学級（うち特別支援学級3学級）								
事業の目的 (なんのために)	教育振興のため、教材・図書等の整備を行い学力向上を図る。								
事業の 実施状況	<p>教育振興のため、以下について実施及び整備しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 知能検査、学力検査等の実施 金額 435,860 円 ・ 児童用・特別支援学級用図書等の整備 金額 421,012 円 								
成果と 課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個に応じた指導の充実 体育的活動に関し、新たに購入したハードル等の備品を活用し、個に応じた指導をすることができました。それにより、児童全体の運動能力を底上げすることにつながりました。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 消耗品費の充実 コピー用紙・インク等を購入するだけでも、配当予算の大部分を占めてしまっています。今後充実してくるであろう、ICT機器を有効活用するための消耗品（itunesカード等）等を万遍なく購入する必要があります。 								
評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性 住民ニーズ、事業の必要性は。	10,7,3,0	
評価点	7	10	1	3	3	1	妥当性 行政必須か、委託の可能性は。	10,7,3,0	
							公平性 受益者の偏りはないか。	5,3,1,0	
							有効性 目標数値は達成できたか。	5,3,1,0	
							効率性 コスト・人員効率はどうか。	5,3,1,0	
先駆性・独創性 他の見本となりえるか。	5,3,1,0								
評価点計 (40点満点)	25		判定基準	A:事業拡充 B:現状維持 C:改善・効率化し継続、委託の検討 D:規模縮小、終期設定、委託の検討 E:休止、廃止					
担当課による判定と理由									
B	教育振興のための学習環境整備を継続して行うべきです。								

平成 **28** 年度 事業成果説明書 兼 評価書

1 事業の成果及び評価

一般会計

事業番号	383	事業名	一般教育振興費（船上小）			事業区分	□新規 ■継続	
担当課	教育総務課		担当係	庶務係、学務係、指導係				
予算区分	款	9	教育費	項	2	小学校費	目	2
								教育振興費
年度	最終 予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考
			国庫 支出金	県支出金	その他 (収入)	起債	一般財源	
平成28年度	1,903	1,870					1,870	
平成28年度(明許)								
活動項目	単位	年度	26(実績)	27(実績)	28(実績)	29	30	
設定なし		目標	—	—	—	—	—	—
		実績	—	—	—	—	—	—
		達成率	—	—	—	—	—	—
事業の対象 (だれに)	船上小学校 児童数140人、教員数21人 学級数8学級（うち特別支援学級2学級）							
事業の目的 (なんのために)	教育振興のため、教材・図書等の整備を行い学力向上を図る。							
事業の実施状況	<p>教育振興のため、以下について実施及び整備しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 知能検査、学力検査等の実施 金額 328,160円 ・ 児童用・特別支援学級用図書等の整備 金額 302,481円 							
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講師謝金等の予算を有効に活用し、地域教材を活かした研究を継続して行うことができました。開校以来、同じ講師（大学教授）から指導助言をしていただいていることがとても有効です。 この研究を通して地域の教育力を活かし、子どもたちを地域の宝として育てる教育活動のさらなる推進が図れました。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 船上小としての教師の指導力と学力向上を図るため、継続して講師謝金等の公費による予算化が必要です。 ・ 小学校統合により教材備品を持ち寄っていますが、老朽化により故障し現有不足の備品があります。児童の学習に必要な備品を充実させて教育効果を高めて学力向上につなげていく必要があります。 							
評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性 住民ニーズ、事業の必要性は。	10,7,3,0
							妥当性 行政必須か、委託の可能性は。	10,7,3,0
							公平性 受益者の偏りはないか。	5,3,1,0
評価点	7	10	1	3	3	1	有効性 目標数値は達成できたか。	5,3,1,0
							効率性 コスト・人員効率はどうか。	5,3,1,0
							先駆性・独創性 他の見本となりえるか。	5,3,1,0
評価点計 (40点満点)			25	判定基準	A:事業拡充 B:現状維持 C:改善・効率化し継続、委託の検討 D:規模縮小、終期設定、委託の検討 E:休止、廃止			
担当課による判定と理由								
B	教育振興のための学習環境整備を継続して行うべきです。							

平成 28 年度 事業成果説明書 兼 評価書

1 事業の成果及び評価

一般会計

事業番号	262	事業名	一般教育振興費(配分外)			事業区分	□新規 ■継続	
担当課	教育総務課		担当係	庶務係、学務係、指導係				
予算区分	款	9	教育費	項	2	小学校費	目	2
								教育振興費
年度	最終 予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考
			国庫 支出金	県支出金	その他 (収入)	起債	一般財源	
平成28年度	27,010	26,788	471		1,300		25,017	
平成28年度(明許)								
活動項目	単位	年度	26(実績)	27(実績)	28(実績)	29	30	
設定なし		目標	—	—	—	—	—	—
		実績	—	—	—	—	—	—
		達成率	—	—	—	—	—	—
事業の対象 (だれに)	町立小学校 5校 対象児童数895名							
事業の目的 (なんのために)	小学校教育の振興のため、必要な施策を講じることにより、小学校教育の充実と義務教育の円滑な実施を図る。							
事業の 実施状況	小学校の教育振興のため、以下の補助金を実施しました。							
	補助金、交付金の名称		金額(円)	対象者	備考			
	教育研究会補助金		315,000	町教育研究会会長	町教育研究会が行う教育研究活動を促進助成することを目的に実施			
	学校給食等補助金		1,720,414	町学校給食会長	保護者の負担軽減、児童・生徒の体位向上を促進することを目的に実施			
修学旅行引率者補助金		79,352	町小中学校長	旅行中における児童及び生徒の安全確保を図ることを目的に実施				
成果と 課題	【成果】							
	<ul style="list-style-type: none"> 小学校の教育振興のため、児童の教材等の整備を行い、基礎学力の定着と教育水準の向上に努めるとともに、就学援助費の支給による経済的な支援を行い、教育の機会均等を図りました。 情報機器については、PC、プロジェクタ、無線LANの整備を完了し、教育用タブレット端末を整備計画に沿って実施しました。 							
【課題】								
<ul style="list-style-type: none"> 教育用情報機器をはじめとする、備品・教材の整備を継続して効果的に進める必要があります。 								
評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性 住民ニーズ、事業の必要性は。	10,7,3,0
							妥当性 行政必須か、委託の可能性は。	10,7,3,0
							公平性 受益者の偏りはないか。	5,3,1,0
評価点	10	10	1	3	3	3	有効性 目標数値は達成できたか。	5,3,1,0
							効率性 コスト・人員効率はどうか。	5,3,1,0
							先駆性・独創性 他の見本となりえるか。	5,3,1,0
評価点計 (40点満点)			30	判定基準	A:事業拡充 B:現状維持 C:改善・効率化し継続、委託の検討 D:規模縮小、終期設定、委託の検討 E:休止、廃止			
担当課による判定と理由								
B	学習指導要領改訂に向けて、小学校教育振興のため、教育備品・教材等を計画的に継続して整備していく必要があると判断します。							

平成 **28** 年度 事業成果説明書 兼 評価書

1 事業の成果及び評価

一般会計

事業番号	263	事業名	一般教育振興費（八橋小）			事業区分	□新規 ■継続		
担当課	教育総務課		担当係	庶務係、学務係、指導係					
予算区分	款	9	教育費	項	2	小学校費	目	1	教育振興費
年度	最終 予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考	
			国庫 支出金	県支出金	その他 (収入)	起債	一般財源		
平成28年度	2,119	2,055					2,055		
平成28年度(明許)									
活動項目	単位	年度	26(実績)	27(実績)	28(実績)	29	30		
設定なし		目標	—	—	—	—	—	—	
		実績	—	—	—	—	—	—	
		達成率	—	—	—	—	—	—	
事業の対象 (だれに)	八橋小学校 児童205人、職員24人 学級数13学級（うち特別支援学級5学級）								
事業の目的 (なんのために)	教育振興のため、教材・図書等の整備を行い学力向上を図る。								
事業の実施状況	<p>教育振興のため、以下について実施及び整備しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 知能検査、学力検査等の実施 金額 467,660円 ・ 児童用・特別支援学級用図書等の整備 金額 444,000円 								
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育振興のために必要な教材・教具等を購入し、教材備品やICT機器を活用した学習の充実により学力の定着と向上につながりました。また、児童図書等を購入し、児童の学習環境を整備しました。 ・ 教育振興にかかる消耗品費が維持され、児童が使用する用紙代、印刷用品代はすべて公費でまかなうことができ、継続して保護者負担経費の軽減になりました。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教材備品等の購入にあたっては年次計画を立て、毎年教職員が備品整理をして現有状況を確認することで有効活用できるよう整備を進めていく必要があります。 								
評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性 住民ニーズ、事業の必要性は。	10,7,3,0	
評価点	7	10	1	3	3	1	妥当性 行政必須か、委託の可能性は。	10,7,3,0	
							公平性 受益者の偏りはないか。	5,3,1,0	
							有効性 目標数値は達成できたか。	5,3,1,0	
							効率性 コスト・人員効率はどうか。	5,3,1,0	
							先駆性・独創性 他の見本となりえるか。	5,3,1,0	
評価点計 (40点満点)	25		判定基準	A:事業拡充 B:現状維持 C:改善・効率化し継続、委託の検討 D:規模縮小、終期設定、委託の検討 E:休止、廃止					
担当課による判定と理由									
B	教育振興のための学習環境整備を継続して行うべきです。								

平成 **28** 年度 事業成果説明書 兼 評価書

1 事業の成果及び評価

一般会計

事業番号	269	事業名	総合的な学習			事業区分	□新規 ■継続		
担当課	教育総務課		担当係	庶務係、学務係					
予算区分	款	9	教育費	項	2	小学校費	目	2	教育振興費
年度	最終 予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考	
			国庫 支出金	県支出金	その他 (収入)	起債	一般財源		
平成28年度	880	858					858	市町村創生交付金対象事業	
平成28年度(明許)									
活動項目	単位	年度	26(実績)	27(実績)	28(実績)	29	30		
設定なし		目標	—	—	—	—	—	—	
		実績	—	—	—	—	—	—	
		達成率	—	—	—	—	—	—	
事業の対象 (だれに)	町立小学校 5校 対象児童数895名								
事業の目的 (なんのために)	各学校が地域の自然や文化など学校・生徒の実態等に応じて、横断的・総合的な学習や生徒の興味・関心等に基づく学習など創意工夫を生かした教育活動を行い、自ら学び自ら考える力などの全人的な生きる力の育成を図る。								
事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 二十世紀梨の栽培体験学習（梨園借上料） 金額 400,000円 子どもたちが琴浦町の主要農産物である二十世紀梨の栽培体験学習を通じて、農業への関心を高めるとともに、自らが育った郷土への愛着を深めることを目的に実施しました。 								
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の教材や人材を活用した学習を仕組むことで、地域への愛着が深まり、地域へ働きかける児童が増えてきています。 琴浦町マップ作り、サケの飼育・放流、海の生き物調査 など ・ 農産物の栽培体験を通じて、琴浦町の特産品を知る良い機会となりました。 二十世紀梨栽培体験、特別栽培米作り など <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習効果を高めるために、学校行事や教科と関連させた計画的な実施が求められます。 ・ 体験学習については、人材の高齢化に伴う受入先の確保が課題となっています。 								
評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性 住民ニーズ、事業の必要性は。	10,7,3,0	
							妥当性 行政必須か、委託の可能性は。	10,7,3,0	
							公平性 受益者の偏りはないか。	5,3,1,0	
評価点	10	10	3	5	3	3	有効性 目標数値は達成できたか。	5,3,1,0	
							効率性 コスト・人員効率はどうか。	5,3,1,0	
							先駆性・独創性 他の見本となりえるか。	5,3,1,0	
評価点計 (40点満点)			34	判定基準	A:事業拡充 B:現状維持 C:改善・効率化し継続、委託の検討 D:規模縮小、終期設定、委託の検討 E:休止、廃止				
担当課による判定と理由									
B	学校教育の重点目標（地域に根ざした教育活動の充実）達成、ことうらまちづくりビジョン（ふるさとへの誇りと愛着の醸成）実現のため、継続して行うべきです。								

平成 28 年度 事業成果説明書 兼 評価書

1 事業の成果及び評価

一般会計

事業番号	1056	事業名	通級指導教室(小学校)			事業区分	□新規 ■継続		
担当課	教育総務課		担当係	庶務係、学務係、指導係					
予算区分	款	9	教育費	項	2	小学校費	目	2	教育振興費
年度	最終 予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考	
			国庫 支出金	県支出金	その他 (収入)	起債	一般財源		
平成28年度	114	98					98		
平成28年度(明許)									
活動項目	単位	年度	26(実績)	27(実績)	28(実績)	29	30		
設定なし		目標	—	—	—	—	—	—	
		実績	—	—	—	—	—	—	
		達成率	—	—	—	—	—	—	
事業の対象 (だれに)	八橋小学校通級指導教室 (町内全小学校対象)								
事業の目的 (なんのため に)	八橋小学校内に発達障がい通級指導教室を開設し、町内児童を中心に、通常の学級における指導だけでは不十分な発達障がいのある児童について、個々の障がいの種類・程度に応じたきめ細やかな教育を行うための教室の運営に必要な維持管理及び環境整備を行う。								
事業の 実施状況	<p>児童の実態に合わせた楽しく学ぶための学習教材を以下のとおり整備しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> 漢字カード、読解力アップのための学習教材等 金額 51,180 円 								
成果と 課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 町内の小学校から毎週通って学習している発達障がいの通級指導教室で、1年生から6年生まで児童一人ひとりの実態に合わせて、個に応じたきめ細やかな指導を行っています。指導内容を工夫し、楽しく学ぶための学習教材、教材備品を多様に整備することで、充実した通級指導ができました。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習や学校生活でつまずきや困り感がある児童の課題を改善し克服していくためには、個別の支援を行い、個々の状況に応じた教材・教具を整備する必要があります。 								
評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性 住民ニーズ、事業の必要性は。	10,7,3,0	
評価点	10	10	1	3	3	3	妥当性 行政必須か、委託の可能性は。	10,7,3,0	
							公平性 受益者の偏りはないか。	5,3,1,0	
							有効性 目標数値は達成できたか。	5,3,1,0	
							効率性 コスト・人員効率はどうか。	5,3,1,0	
先駆性・独創性 他の見本となりえるか。	5,3,1,0								
評価点計 (40点満点)	30		判定基準	A:事業拡充 B:現状維持 C:改善・効率化し継続、委託の検討 D:規模縮小、終期設定、委託の検討 E:休止、廃止					
担当課による判定と理由									
B	発達障がいのある児童について、個々の障がいの種類・程度に応じた教育を行うために継続して行うべきです。								

平成 28 年度 事業成果説明書 兼 評価書

1 事業の成果及び評価

一般会計

事業番号	386	事業名	一般経常経費（赤碓中）			事業区分	□新規 ■継続		
担当課	教育総務課		担当係	庶務係、学務係、指導係					
予算区分	款	9	教育費	項	3	中学校費	目	1	学校管理費
年度	最終 予算額 (千円)	決算額 (千円)		事業費財源内訳 (千円)				備考	
		国庫 支出金	県支出金	その他 (収入)	起債	一般財源			
平成28年度	2,925	2,560						2,560	
平成28年度(明許)									
活動項目	単位	年度	26(実績)	27(実績)	28(実績)	29	30		
設定なし		目標	—	—	—	—	—	—	
		実績	—	—	—	—	—	—	
		達成率	—	—	—	—	—	—	
事業の対象 (だれに)	赤碓中学校 生徒数203人、教職員数29人 学級数10学級(うち特別支援学級3学級)								
事業の目的 (なんのために)	生徒が安心して学校生活を行えるよう学校施設の維持・管理を行う。								
事業の実施状況	学校の維持管理として、以下の備品を整備しました。 【整備備品】 液晶テレビ、消火器 等 金額 224,708 円								
成果と課題	【成果】 ・教育環境整備や施設維持管理に取り組み、事故なく円滑な学校運営に努めました。 【課題】 ・施設管理については過誤による破損などが減るよう努力するとともに、できる範囲で職員による修理などもしています。しかし、設備の老朽化による破損や不具合などは後を絶たず、継続的な措置が必要です。また、生徒の安全や健康に関する環境整備も同様に継続が望まれます。								
評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性	住民ニーズ、事業の必要性は。	10,7,3,0
評価点	7	10	5	3	3	1	妥当性	行政必須か、委託の可能性は。	10,7,3,0
							公平性	受益者の偏りはないか。	5,3,1,0
							有効性	目標数値は達成できたか。	5,3,1,0
							効率性	コスト・人員効率はどうか。	5,3,1,0
							先駆性・独創性	他の見本となりえるか。	5,3,1,0
評価点計 (40点満点)			29	判定基準	A:事業拡充 B:現状維持 C:改善・効率化し継続、委託の検討 D:規模縮小、終期設定、委託の検討 E:休止、廃止				
担当課による判定と理由									
B	生徒が安心して生活できる学校の施設管理のため、必要不可欠であり継続して行うべきです。								

平成 28 年度 事業成果説明書 兼 評価書

1 事業の成果及び評価

一般会計

事業番号	278	事業名	一般経常経費（東伯中）			事業区分	□新規 ■継続		
担当課	教育総務課		担当係	庶務係、学務係、指導係					
予算区分	款	9	教育費	項	3	中学校費	目	1	学校管理費
年度	最終 予算額 (千円)	決算額 (千円)		事業費財源内訳 (千円)				備考	
		国庫 支出金	県支出金	その他 (収入)	起債	一般財源			
平成28年度	4,271	3,590						3,590	
平成28年度(明許)									
活動項目	単位	年度	26(実績)	27(実績)	28(実績)	29	30		
設定なし		目標	—	—	—	—	—	—	
		実績	—	—	—	—	—	—	
		達成率	—	—	—	—	—	—	
事業の対象 (だれに)	東伯中学校 生徒数297人、教職員数32人 学級数11学級(うち特別支援学級2学級)								
事業の目的 (なんのために)	生徒が安全かつ安心して生活できるよう、学校を運営管理する。								
事業の実施状況	学校の維持管理として、以下の備品を整備しました。 【整備備品】 ホワイトボード、事務用椅子 等 金額 632,784円								
成果と課題	【成果】 ・トイレ、水道、照明、電気関係、建具、ガラス、管理備品などの修繕において、日常的に、また突発的に起こる破損に迅速に対応できることは、安心安全な学校づくりの視点から非常に有効です。 【課題】 ・体育館管理について、長期的に良好な状態を維持するためには、学校教育での使用のみならず社会体育でも使用している町施設であることから、業者によるワックス剥離並び塗布をすることが望まれます。								
評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性	住民ニーズ、事業の必要性は。	10,7,3,0
評価点	7	10	5	3	3	1	妥当性	行政必須か、委託の可能性は。	10,7,3,0
							公平性	受益者の偏りはないか。	5,3,1,0
							有効性	目標数値は達成できたか。	5,3,1,0
							効率性	コスト・人員効率はどうか。	5,3,1,0
							先駆性・独創性	他の見本となりえるか。	5,3,1,0
評価点計 (40点満点)		29		判定基準		A:事業拡充 B:現状維持 C:改善・効率化し継続、委託の検討 D:規模縮小、終期設定、委託の検討 E:休止、廃止			
担当課による判定と理由									
B	生徒が安心して生活できる学校の施設管理のため、必要不可欠であり継続して行うべきです。								

平成 28 年度 事業成果説明書 兼 評価書

1 事業の成果及び評価

一般会計

事業番号	277	事業名	一般経常経費(配分外)			事業区分	□新規 ■継続		
担当課	教育総務課		担当係	学務係					
予算区分	款	9	教育費	項	3	中学校費	目	1	学校管理費
年度	最終 予算額 (千円)	決算額 (千円)		事業費財源内訳 (千円)				備考	
		国庫 支出金	県支出金	その他 (収入)	起債	一般財源			
平成28年度	31,016	30,640				5,000		25,640	
平成28年度(明許)									
活動項目	単位	年度	26(実績)	27(実績)	28(実績)	29	30		
設定なし		目標	—	—	—	—	—		
		実績	—	—	—	—	—		
		達成率	—	—	—	—	—		
事業の対象 (だれに)	町立中学校 2校 対象生徒数 514名								
事業の目的 (なんのために)	中学校の教育・学習環境を確保するため、生徒の健康管理や必要な物品及び施設設備の整備と維持管理を行い、学校教育活動の円滑な運営を図る。								
事業の実施状況	<p>中学校の施設維持及び整備を以下のとおり実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通級指導教室エアコン設置工事、保健室ベッド用カーテンレール設置工事 教室等無線LAN設置工事 等 金額 4,821,924円 ・中学校施設剪定防除等委託料、消防設備委託料、電気設備保守委託料 等 金額 2,576,267円 								
成果と課題	<p>【成果】 中学校2校の教育環境整備に取り組み、円滑な学校運営ができるよう努めました。</p> <p>【課題】 施設等の経年により修繕や補修が増加し、維持管理(校舎・建具・水周り等)の経費がかかっています。</p>								
評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性	住民ニーズ、事業の必要性は。	10,7,3,0
評価点	10	10	5	3	3	1	妥当性	行政必須か、委託の可能性は。	10,7,3,0
							公平性	受益者の偏りはないか。	5,3,1,0
							有効性	目標数値は達成できたか。	5,3,1,0
							効率性	コスト・人員効率はどうか。	5,3,1,0
							先駆性・独創性	他の見本となりえるか。	5,3,1,0
評価点計 (40点満点)		32		判定基準	A:事業拡充 B:現状維持 C:改善・効率化し継続、委託の検討 D:規模縮小、終期設定、委託の検討 E:休止、廃止				
担当課による判定と理由									
B	中学校の運営を円滑にするため、継続して行うべきです。また、災害時の避難所としての機能も備える必要があります。								

平成 **28** 年度 事業成果説明書 兼 評価書

1 事業の成果及び評価

一般会計

事業番号	281	事業名	一般教育振興費（赤碓中）			事業区分	□新規 ■継続		
担当課	教育総務課		担当係	庶務係、学務係、指導係					
予算区分	款	9	教育費	項	3	中学校費	目	2	教育振興費
年度	最終 予算額 (千円)	決算額 (千円)		事業費財源内訳 (千円)				備考	
		国庫 支出金	県支出金	その他 (収入)	起債	一般財源			
平成28年度	3,213	2,980						2,980	
平成28年度(明許)									
活動項目	単位	年度	26(実績)	27(実績)	28(実績)	29	30		
設定なし		目標	—	—	—	—	—	—	—
		実績	—	—	—	—	—	—	—
		達成率	—	—	—	—	—	—	—
事業の対象 (だれに)	赤碓中学校 生徒数203人、教職員数29人 学級数10学級(うち特別支援学級3学級)								
事業の目的 (なんのために)	教育振興のため、必要な教材・図書等の整備を行い学力向上を図る。								
事業の実施状況	<p>教育振興のため、以下について実施及び整備しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力検査等の実施 金額 683,870 円 ・児童用・特別支援学級用図書等の整備 金額 702,000 円 								
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育振興のための学習環境整備を行い、教材備品を活用した授業の充実を図りました。特に情報機器を活用した授業は生徒への意欲へとつながりました。また、教材備品の更新により安心安全で効率的な学習が進められています。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業に関する環境整備は年次ごとに継続的に進めていく必要があります。特にICT関係のものは、活用頻度も高く耐用年数が短い傾向にあるためさらなる更新が必要になっています。 								
評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性	住民ニーズ、事業の必要性は。	10,7,3,0
評価点	7	10	1	3	3	1	妥当性	行政必須か、委託の可能性は。	10,7,3,0
							公平性	受益者の偏りはないか。	5,3,1,0
							有効性	目標数値は達成できたか。	5,3,1,0
							効率性	コスト・人員効率はどうか。	5,3,1,0
							先駆性・独創性	他の見本となりえるか。	5,3,1,0
評価点計 (40点満点)			25	判定基準	A:事業拡充 B:現状維持 C:改善・効率化し継続、委託の検討 D:規模縮小、終期設定、委託の検討 E:休止、廃止				
担当課による判定と理由									
B	教育振興のための学習環境整備を継続して行うべきです。								

平成 **28** 年度 事業成果説明書 兼 評価書

1 事業の成果及び評価

一般会計

事業番号	281	事業名	一般教育振興費（東伯中）			事業区分	□新規 ■継続		
担当課	教育総務課		担当係	庶務係、学務係、指導係					
予算区分	款	9	教育費	項	3	中学校費	目	2	教育振興費
年度	最終 予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考	
			国庫 支出金	県支出金	その他 (収入)	起債	一般財源		
平成28年度	4,396	4,178					4,178		
平成28年度(明許)									
活動項目	単位	年度	26(実績)	27(実績)	28(実績)	29	30		
設定なし		目標	—	—	—	—	—		
		実績	—	—	—	—	—		
		達成率	—	—	—	—	—		
事業の対象 (だれに)	東伯中学校 生徒数297人、教職員数32人 学級数11学級(うち特別支援学級2学級)								
事業の目的 (なんのために)	教育振興のため、教材・図書等の整備を行い学力向上を図る。 新学習指導要領に必要な教材や図書等学習環境の整備を行う。								
事業の実施状況	<p>教育振興のため、以下について実施及び整備しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力検査等の実施 金額 <input type="text" value="1,008,570"/>円 ・児童用・特別支援学級用図書等の整備 金額 <input type="text" value="935,506"/>円 								
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器整備により、デジタル教材並びにデジタル教科書の使用が可能となり、教師が行う授業づくり、生徒たちの個々に応じた学びが可能となりました。 ・教材教具、部活動に係わる備品の修繕を迅速に行うことで、支障をきたすことなく授業並びに部活動を行うことができました。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器について、整備目標をたて年次的に購入または更新していくことが重要となります。 								
評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性 住民ニーズ、事業の必要性は。	10,7,3,0	
評価点	7	10	1	3	3	1	妥当性 行政必須か、委託の可能性は。	10,7,3,0	
							公平性 受益者の偏りはないか。	5,3,1,0	
							有効性 目標数値は達成できたか。	5,3,1,0	
							効率性 コスト・人員効率はどうか。	5,3,1,0	
先駆性・独創性 他の見本となりえるか。	5,3,1,0								
評価点計 (40点満点)	25		判定基準	A:事業拡充 B:現状維持 C:改善・効率化し継続、委託の検討 D:規模縮小、終期設定、委託の検討 E:休止、廃止					
担当課による判定と理由									
B	教育振興のための学習環境整備を継続して行うべきです。								

平成 **28** 年度 事業成果説明書 兼 評価書

1 事業の成果及び評価

一般会計

事業番号	280	事業名	一般教育振興費(配分外)			事業区分	□新規 ■継続		
担当課	教育総務課		担当係	学務係					
予算区分	款	9	教育費	項	3	中学校費	目	2	教育振興費
年度	最終 予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考	
			国庫 支出金	県支出金	その他 (収入)	起債	一般財源		
平成28年度	24,669	24,306	231	153	7,000		16,922		
平成28年度(明許)									
活動項目	単位	年度	26(実績)	27(実績)	28(実績)	29	30		
設定なし		目標	—	—	—	—	—	—	
		実績	—	—	—	—	—	—	
		達成率	—	—	—	—	—	—	
事業の対象 (だれに)	町立中学校 2校 対象生徒数 514名								
事業の目的 (なんのために)	中学校教育の振興のため、必要な施策を講じるとともに、遠距離通学に対する補助や就学援助など中学校教育の充実と義務教育の円滑な実施を図る。								
事業の 実施状況	中学校の教育振興のため、以下の補助金を実施しました。								
	補助金、交付金の名称	金額(円)	対象者	備考					
	遠距離通学生徒補助金	2,048,400	対象区域の生徒の保護者	遠距離通学する生徒の保護者の負担軽減を図ることを目的に実施					
	学校給食等補助金	932,742	学校給食会長	保護者の負担軽減、児童・生徒の体位向上を促進することを目的に実施					
	中学校部活動補助金	448,200	中学校長	教育活動である部活動の円滑で効果的な推進を図ることを目的に実施					
成果と 課題	【成果】								
	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校2校の教育振興のため、生徒の教材等の整備を行い、基礎学力の定着と教育水準の向上を図り、学力向上に努めることができました。 ・情報機器については、PC、プロジェクタ、携帯スクリーン、教材提示装置、無線LANの整備を完了し、教育用タブレット端末の整備を整備計画に沿って実施しました。 ・前年度の教科用図書の採択に伴い、中学校の教師用指導書等の整備を行いました。 								
	【課題】								
	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒自らの学習意欲や将来への目的意識を高める必要があります。 ・プログラミング教育に対応できる教育用情報機器をはじめとする、備品・教材の整備を継続して効果的に進める必要があります。 								
評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性	住民ニーズ、事業の必要性は。	10,7,3,0
							妥当性	行政必須か、委託の可能性は。	10,7,3,0
							公平性	受益者の偏りはないか。	5,3,1,0
							有効性	目標数値は達成できたか。	5,3,1,0
							効率性	コスト・人員効率はどうか。	5,3,1,0
							先駆性・独創性	他の見本となりえるか。	5,3,1,0
評価点	10	10	1	3	3	3			
評価点計 (40点満点)			30	判定基準	A:事業拡充 B:現状維持 C:改善・効率化し継続、委託の検討 D:規模縮小、終期設定、委託の検討 E:休止、廃止				
担当課による判定と理由									
B	学習指導要領改訂に向けて、中学校教育振興のため、教育備品・教材等を計画的に継続して整備していく必要があると判断します。								

平成 **28** 年度 事業成果説明書 兼 評価書

1 事業の成果及び評価

一般会計

事業番号	285	事業名	総合的な学習			事業区分	□新規 ■継続		
担当課	教育総務課		担当係	庶務係、学務係					
予算区分	款	9	教育費	項	3	中学校費	目	2	教育振興費
年度	最終 予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考	
			国庫 支出金	県支出金	その他 (収入)	起債	一般財源		
平成28年度	308	270					270	市町村創生交付金対象事業	
平成28年度(明許)									
活動項目	単位	年度	26(実績)	27(実績)	28(実績)	29	30		
設定なし		目標	—	—	—	—	—	—	
		実績	—	—	—	—	—	—	
		達成率	—	—	—	—	—	—	
事業の対象 (だれに)	町立中学校 2校 対象生徒数 514名								
事業の目的 (なんのために)	各学校が地域の自然や文化など学校・生徒の実態等に応じて、横断的・総合的な学習や生徒の興味・関心等に基づく学習など創意工夫を生かした教育活動を行い、自ら学び自ら考える力などの全人的な生きる力の育成を図る。								
事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> わくわく東伯、ワクワク赤碕（職場体験学習）保険料 金額 53,900円 地域生活を支える様々な職場体験学習を通して、地域の人々と触れ合いや地域への愛着を深めることを目的に実施しました。 								
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域生活を支える様々な仕事や体験、人々との出会いを仕組むことで、琴浦町のよさを再認識し地域への愛着を深める学習機会となっています。 わくわく東伯、ワクワク赤碕、社会人講話 など 農産物の栽培体験を通じて、地域の主要な産業である農業を知る機会となりました。 そば栽培 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科内容と関連させながら、地域と協働できる活動を広げていく必要があります。 								
評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性 住民ニーズ、事業の必要性は。	10,7,3,0	
							妥当性 行政必須か、委託の可能性は。	10,7,3,0	
							公平性 受益者の偏りはないか。	5,3,1,0	
評価点	10	10	3	5	3	3	有効性 目標数値は達成できたか。	5,3,1,0	
							効率性 コスト・人員効率はどうか。	5,3,1,0	
							先駆性・独創性 他の見本となりえるか。	5,3,1,0	
評価点計 (40点満点)			34	判定基準	A:事業拡充 B:現状維持 C:改善・効率化し継続、委託の検討 D:規模縮小、終期設定、委託の検討 E:休止、廃止				
担当課による判定と理由									
B	学校教育の重点目標（地域に根ざした教育活動の充実）達成、ことうらまちづくりビジョン（ふるさとへの誇りと愛着の醸成）実現のため、継続して行うべきです。								

平成 28 年度 事業成果説明書 兼 評価書

1 事業の成果及び評価

一般会計

事業番号	1302	事業名	通級指導教室(中学校)			事業区分	□新規 ■継続		
担当課	教育総務課		担当係	庶務係、学務係、指導係					
予算区分	款	9	教育費	項	3	中学校費	目	2	教育振興費
年度	最終 予算額 (千円)	決算額 (千円)		事業費財源内訳 (千円)				備考	
		国庫 支出金	県支出金	その他 (収入)	起債	一般財源			
平成28年度	37	32						32	
平成28年度(明許)									
活動項目	単位	年度	26(実績)	27(実績)	28(実績)	29	30		
設定なし		目標	—	—	—	—	—	—	
		実績	—	—	—	—	—	—	
		達成率	—	—	—	—	—	—	
事業の対象 (だれに)	東伯中学校通級指導教室(中部管内の中学生徒)								
事業の目的 (なんのため)	東伯中学校内に発達障がい通級指導教室を開設し、町内生徒を中心に、通常の学級における指導だけでは不十分な発達障がいのある生徒について、個々の障がいの種類・程度に応じたきめ細やかな教育を行うための教室の運営に必要な維持管理及び環境整備を行う。								
事業の実施状況	<p>生徒のつまずきの状況に合わせた学習教材を以下のとおり整備しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> 英語教材、状況認知にかかる教材等 金額 31,930 円 								
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒たちの個々に応じた教材を購入し活用したことで、学びが深まりました。 通級指導教室に通う個々の生徒のつまずきの状況を把握し、指導内容を工夫するなど一人ひとりの状況に合わせたきめ細やかな指導を行い、通常の学級での学習に対応できる適応力の向上を図ることができました。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> それぞれの生徒に応じた教材を、引き続き整備する必要があります。 								
評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性 住民ニーズ、事業の必要性は。	10,7,3,0	
							妥当性 行政必須か、委託の可能性は。	10,7,3,0	
							公平性 受益者の偏りはないか。	5,3,1,0	
評価点	10	10	1	3	3	3	有効性 目標数値は達成できたか。	5,3,1,0	
							効率性 コスト・人員効率はどうか。	5,3,1,0	
							先駆性・独創性 他の見本となりえるか。	5,3,1,0	
評価点計 (40点満点)			30	判定基準	A:事業拡充 B:現状維持 C:改善・効率化し継続、委託の検討 D:規模縮小、終期設定、委託の検討 E:休止、廃止				
担当課による判定と理由									
B	発達障がいのある生徒について、個々の障がいの種類・程度に応じた教育を行うために継続すべきだと判断します。								

平成 **28** 年度 事業成果説明書 兼 評価書

1 事業の成果及び評価

一般会計

事業番号	1340	事業名	鳥取中部地震災害対策事業（地震災害復旧費・教育総務課）			事業区分	■新規 □継続		
担当課	教育総務課		担当係	庶務係					
予算区分	款	10 災害復旧費	項	2 地震災害復旧費	目	2	鳥取県中部地震対策費		
年度	最終 予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)				備考		
			国庫 支出金	県支出金	その他 (収入)	起債		一般財源	
平成28年度	6,057	672				200	472	H29年度に繰越し	
平成28年度(明許)									
活動項目	単位	年度	26(実績)	27(実績)	28(実績)	29	30		
設定なし		目標	—	—	—	—	—	—	
		実績	—	—	—	—	—	—	
		達成率	—	—	—	—	—	—	
事業の対象 (だれに)	小学校5校（浦安小学校、聖郷小学校、八橋小学校、赤碕小学校、船上小学校） 中学校1校（東伯中学校）								
事業の目的 (なんのために)	鳥取県中部地震により被災した小・中学校施設の修繕を行う。								
事業の 実施状況	地震により被害を受けた以下の学校施設の修繕を行いました。								
	学校名	施設名			金額(千円)	備考			
	浦安小学校	校舎、特別教室棟、ランチルーム			286	平成29年度まで			
	聖郷小学校	校舎、体育館			1,361	平成29年度まで			
	八橋小学校	校舎、特別教室棟、プール			1,609	平成29年度まで			
	赤碕小学校	校舎、体育館、プール			1,377	平成29年度まで			
	船上小学校	校舎			322				
	東伯中学校	教室棟、昇降棟、部室棟			1,102	平成29年度まで			
※赤碕小学校の金額については見込み。									
成果と 課題	【成果】								
	<ul style="list-style-type: none"> 鳥取県中部地震により被災した小・中学校施設の修繕を行いました。 浦安小学校、聖郷小学校、八橋小学校、赤碕小学校、船上小学校、東伯中学校 								
【課題】									
<ul style="list-style-type: none"> 大規模災害時に人的被害を最小限に抑えるための施設整備を、今後、計画的に進めていく必要があります。 窓ガラスの飛散防止対策、照明器具の落下防止対策 など 									
評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性	住民ニーズ、事業の必要性は。	10,7,3,0
							妥当性	行政必須か、委託の可能性は。	10,7,3,0
							公平性	受益者の偏りはないか。	5,3,1,0
							有効性	目標数値は達成できたか。	5,3,1,0
							効率性	コスト・人員効率はどうか。	5,3,1,0
							先駆性・独創性	他の見本となりえるか。	5,3,1,0
評価点	10	10	5	3	3	1			
評価点計 (40点満点)			32	判定基準	A:事業拡充 B:現状維持 C:改善・効率化し継続、委託の検討 D:規模縮小、終期設定、委託の検討 E:休止、廃止				
担当課による判定と理由									
E	被災した施設の修繕は平成29年度に完了する予定です。								